

情報学部総合情報学科

学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

情報学部総合情報学科は、情報化社会に対応しつつ、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

2. 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2.1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

本学科が目標とする専門力の育成とは、社会に通用する生きる力、問題解決能力、コミュニケーション能力、情報処理能力の育成です。近年における企業を取り巻く環境は、大きく変化し、今後更に変化すると思われまます。

こうした変化の中、企業が求める人材やその能力にも大きな変化が見られるようになりました。そうした人材を育成するために、新たな時代のビジネスパーソン(企業人)になるための基礎的知識を学ぶと共に、企業経営、スポーツ関連の専門科目について企業経営に資する人材になるため経営情報・スポーツ情報に関する分析力、考察力、問題解決力を学びます。

なお、本学科はビジネス全般を学ぶ経営情報コースとスポーツ関連のマネジメントを学ぶスポーツ情報コースを設定しています。

2.2 学位授与の方針

総合情報学科では、以下の力を備えた者に学位を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。

(専門力)

8. 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。
9. 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる。
10. データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる。
11. 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている。
12. 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のために応用できる。
13. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。

3. 標準教育プログラム

総合情報学科において学習する皆さんが、上の教育の目的と学位授与の方針に到達するためには、以下の(1)～(8)に述べる内容の「教養力」と「専門力」を4年間で身につける必要があります(以下、標準教育プログラムと呼びます)。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(専門力)

(3) 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる

企業社会の中で起きる問題を解決するためには、企業に関する組織や財務、法律、戦略、歴史などを積極的に学ぼうとする姿勢が不可欠です。加えて、こうした知識を習得すると共に、これらの知識(情報)を収集したり、処理したりするための行動力も必要となります。

(4) 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる

現代社会は、組織社会ともいわれるように、他者との協業によって多くの活動を成し遂げていく社会でもあります。このような社会においては、行動に際して倫理的な判断とコミュニケーション能力が求められます。

(5) データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる

企業においては、データを管理、加工、処理、分析するためのスキルが求められています。分析結果を価値創造に生かすためには、データの背景を十分に知る必要があり、カリキュラムにおいては、経済、経営等の経営学関連科目だけでなく、情報、統計、データサイエンス関連科目が開講されます。また、ビジネス分野の第一線で活躍をしている方々の話を多く聞くことができる授業もあり、幅広いスキルを身につけることができます。

(6) 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている

社会において有為な人材となるためには、基礎的な知識と応用的な知識の両方を身につける必要があります。本学科では経営またはスポーツの理論・概念を幅広く学びます。

(7) 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のために応用できる

社会生活において、情報の管理は不可欠です。ビジネス文書やスプレッドシートの作成や管理だけでなく、データベースや情報ネットワークに関する基礎知識とスキルの習得も必要です。これらの知識とスキルを活用した問題解決能力を発揮できるための素養も習得します。

(8) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている

現代社会において創造性ある人材は最も貴重な人材として評価されます。与えられた知識を吸収するだけでなく、これを応用して新たな知見を創造するためのスキルを身につけます。

4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

図1は、上記で説明した標準教育プログラムを実行するために必要な教育課程の構成概念をまとめたものです。また、4年間の具体的な授業科目の単位数等については、開講科目一覧を参照して下さい。授業科目は、人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群の3つの群から構成されています。以下では、各群の教育内容について説明します。

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
科目群の位置づけ	人間科学科目群			
	社会・自然・人間と科学技術を調和させるための幅広い知識を習得し、必要な教養を身につけます。			
	専門基礎科目群			
	今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につけます。			
	専門科目群			
	基幹科目			
	専門知識を習得するときの土台となる科目です。			
			展開科目	
			興味や将来の進路にしたがってより高度な学習ができる科目です。	
			卒業研究	
			該当科目は、 세미나1、2、3、4、卒業研究です。 세미나は卒業研究の土台となる科目です。	

図-1 総合情報学科の教育課程概念図

4.1 人間科学科目群

(1) 教育内容

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ(First Year Seminar, 略して FYS, 初年次セミナ)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「学習技法 (スタディ・スキルズ)」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法

の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応できること、言い換えれば皆さんが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをすることであります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとするとき、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれにこたえねばなりません。

② 外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「資格英語1・2」と「英語スキル1・2」、2年次には「英語スキル3・4」を必修科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「実践英語1・2(資格コース)」、「実践英語1・2(スキルコース)」という選択科目を開講しています。

③ 健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとしても)運動を継続して行えるような素体を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語セミナー

基礎英語セミナーでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。

一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることとなります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程(カリキュラム)は、三つの科目群に支えられています。一つはそれぞれの学科や専攻でおもに学ぶ専門科目群、あとの二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群は上記 FYS と語学や体育の実技を含むAグループとBグループから成り立っています。なかでもBグループには、人間、こころ、文学、歴史、文化、政治、経済、社会のしくみや国際情勢、さらには身の回りの自然環境から広くは宇宙それに自分たちの生命や健康問題に至るまで、実にさまざまなテーマを扱う授業科目が配置されています。

開講が予定されているこれらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんにできるだけ多様な刺激を知的にも身体的にも与えることができるように工夫されたものばかりです。そのねらいはというと、トータルな人間教育に他なりません。言い換えると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養に気づいていただき、それに磨きをかけてもらえるように、これが何を措いても本科目群の大目的です。大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で楽しく豊かな人生を創出していくためにはやはり「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション力」、「自ら考える力」とそれと「協働力」に重点を置いています。こうした点で皆さんがますます自分らしさを発揮できるよう、Bグループではさまざまな授業内容を取りそろえていますから、できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは21世紀初頭に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入しており、不透明で不確実な時代の到来がそこかしこで言われています。それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介してさらに緊密に結びつくと同時に、かたやアメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州・アフリカ・中東圏でのちょっとした歪が、すぐにも世界各国に対して経済的にも政治的にも甚大な影響をもたらします。さらに今後はAI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力のそのまた先を行くほどの近未来社会が待ち受けているようです。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められているのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出して伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査の方法、現代社会論、リベラルアーツ特別講義が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2年次、3年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングやPBL(問題・課題解決型授業)を意識した少人数科目を開講しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身が考え始め、仲間と語り合い、行動をおこすところに楽しさの発見と醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群Bグループがその糸口となることを願っています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4.2 専門基礎科目群および専門科目群

専門基礎科目群は、今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につける授業科目で、1年次および2年次に開講されます。

専門分野である専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されており、基幹科目は1年次および2年次に、展開科目は2年次から4年次に、卒業研究は3年次および4年次に開講されます。「基幹科目」とは、専門科目の中でも根幹となる科目であり、専門知識を修得するための土台となる科目です。また、「展開科目」とは、各人の興味や将来の進路を踏まえ、自身が希望する分野の高度な学習を行う科目です。卒業研究は4年間の学習の集大成の科目であり、ここでは論文を作成します。

各科目において学ぶ内容や修得する内容については、後述する「学修到達目標」のカリキュラムマップに記載されています。また、どの学期にどのような科目を履修できるかについては、履修モデルを参照してください。

(1) 専門基礎科目群の授業科目(計17科目)

今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につける授業科目で、1年次と2年次に開講される科目です。

総合情報入門 세미나、情報処理演習1、プログラミング演習1、データベース基礎、経営学概論、経営実践入門、経営実践1、経営実践2、スポーツ情報実践1、スポーツ情報実践2、入門簿記、簿記原理、会計学、コミュニケーションスキル1、コミュニケーションスキル2、経済学入門、情報統計学1

(2) 専門科目群の授業科目(計65科目)

専門科目群は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されていますが、本専攻においては、基幹科目および展開科目は更に、以下の4つの領域に分類され、これらは本専攻における専門科目群の柱となっています。

- ・経営情報部門
- ・スポーツ情報部門
- ・データサイエンス部門
- ・キャリア開発部門

① 基幹科目

多くの基幹科目は、専門基礎科目群を学習した後、1年次の後期および2年次に設定されています。基幹科目のうち、専門科目群の4つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

- ・経営情報部門

経営史、マーケティング概論、人材マネジメント、企業経営戦略論、交通論、工業簿記、原価計算、民法、会社法、異文化コミュニケーション1、異文化コミュニケーション2、経営情報プロジェクト演習1、経営情報プロジェクト演習2、経営情報プロジェクト演習3

- ・スポーツ情報部門

スポーツ情報科学概論、スポーツライフのデータサイエンス、スポーツ測定評価法、情報概論、ヘルスケアとスポーツライフ、スポーツ情報プロジェクト演習1、スポーツ情報プロジェクト演習2、スポーツ情報プロジェクト演習3、コーチング論、トレーニング論、スポーツ心理学、スポーツライフと社会、スポーツライフと栄養、スポーツライフと健康、スポーツコンディショニング、スポーツコンディショニング演習

- ・データサイエンス部門

データサイエンス概論、情報処理演習2、情報統計学2、プログラミング演習2

- ・キャリア開発部門

キャリア開発 1、キャリア開発 2、キャリア開発 3

②展開科目

基幹科目で学習した内容を基に、3年次から4年次に掛けて開講される展開科目では、専門科目の発展的な内容を修得します。展開科目のうち、専門科目群の4つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

・経営情報部門

経営実践3、中小企業論、環境経営論、ベンチャービジネス論、国際経営論、物流論、経営情報論、インターネットビジネス、海外事情 A、海外事情 B、管理会計論、経営分析、金融と財務、労働法、知的財産権、

・スポーツ情報部門

プレゼンテーションスキル、スポーツ情報実践3、スポーツと安全、スポーツマネジメント

・データサイエンス部門

データサイエンス演習、データサイエンス演習2

・キャリア開発部門

キャリア開発4、インターンシップ

③卒業研究

卒業研究は、 세미나 1、 세미나 2、 세미나 3、 세미나 4 および卒業研究から構成されており、この科目においては、各自が研究課題を設定し、その研究を行います。卒業研究は論文としてまとめ、最後に研究内容の発表を行います。

(3)学修到達目標

標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学び、どのような知識を修得するのかについては、各科目の学修到達目標と学位授与の方針との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

5. カリキュラム・フローチャート

専門基礎科目群の授業科目は、総合情報学科における学びの土台となる科目からなります。また、専門科目群の授業科目は、柱となる4つのカテゴリーの基礎となる基幹科目とそれらの知識を発展させる展開科目、卒業研究からなります。図-1にあげた専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを図-2、図-2. 1に示します。

総合情報学科 経営情報コース カリキュラム・フローチャート

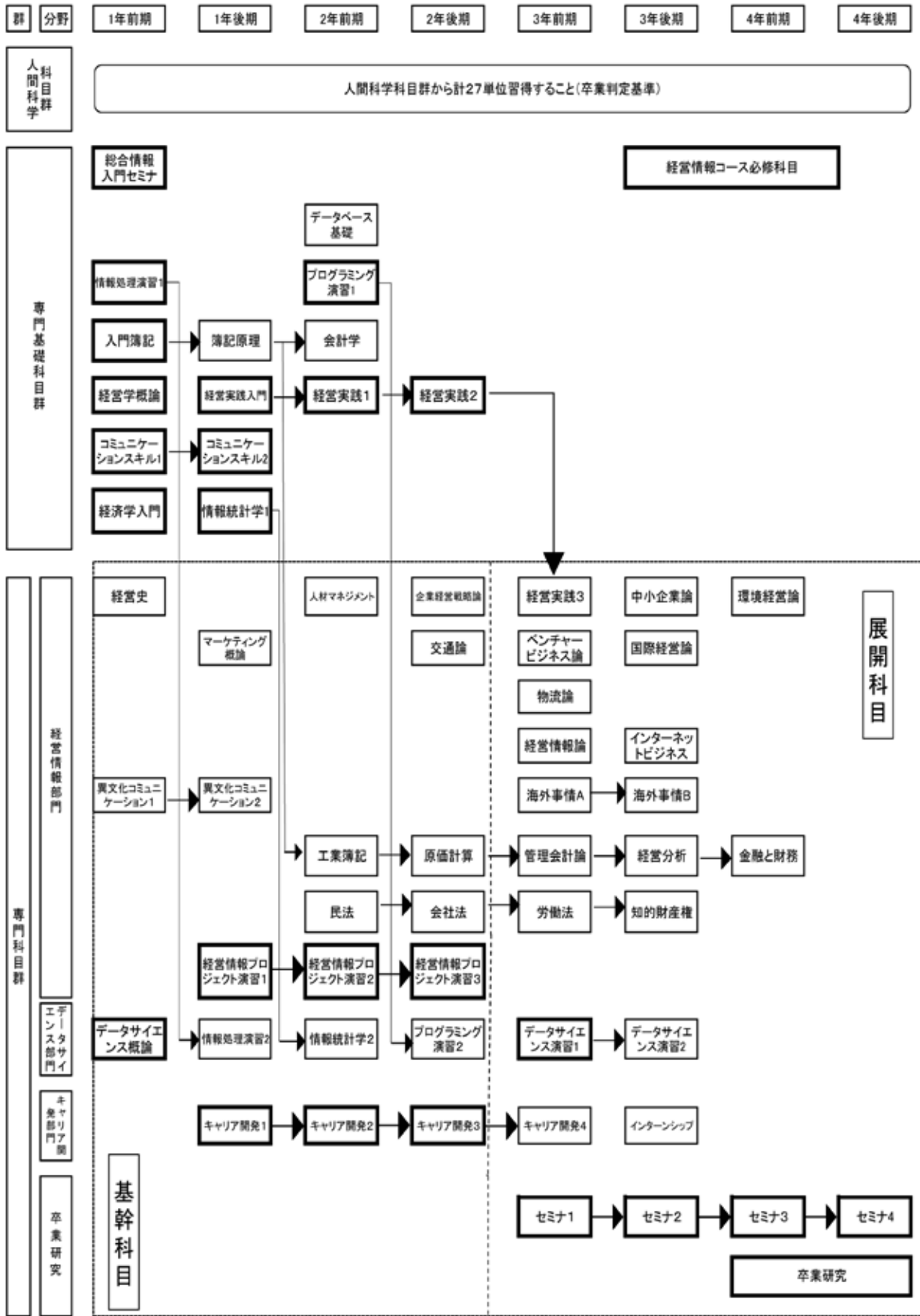


図-2 総合情報学科 経営情報コース カリキュラム・フローチャート

総合情報学科 スポーツ情報コース カリキュラム・フローチャート

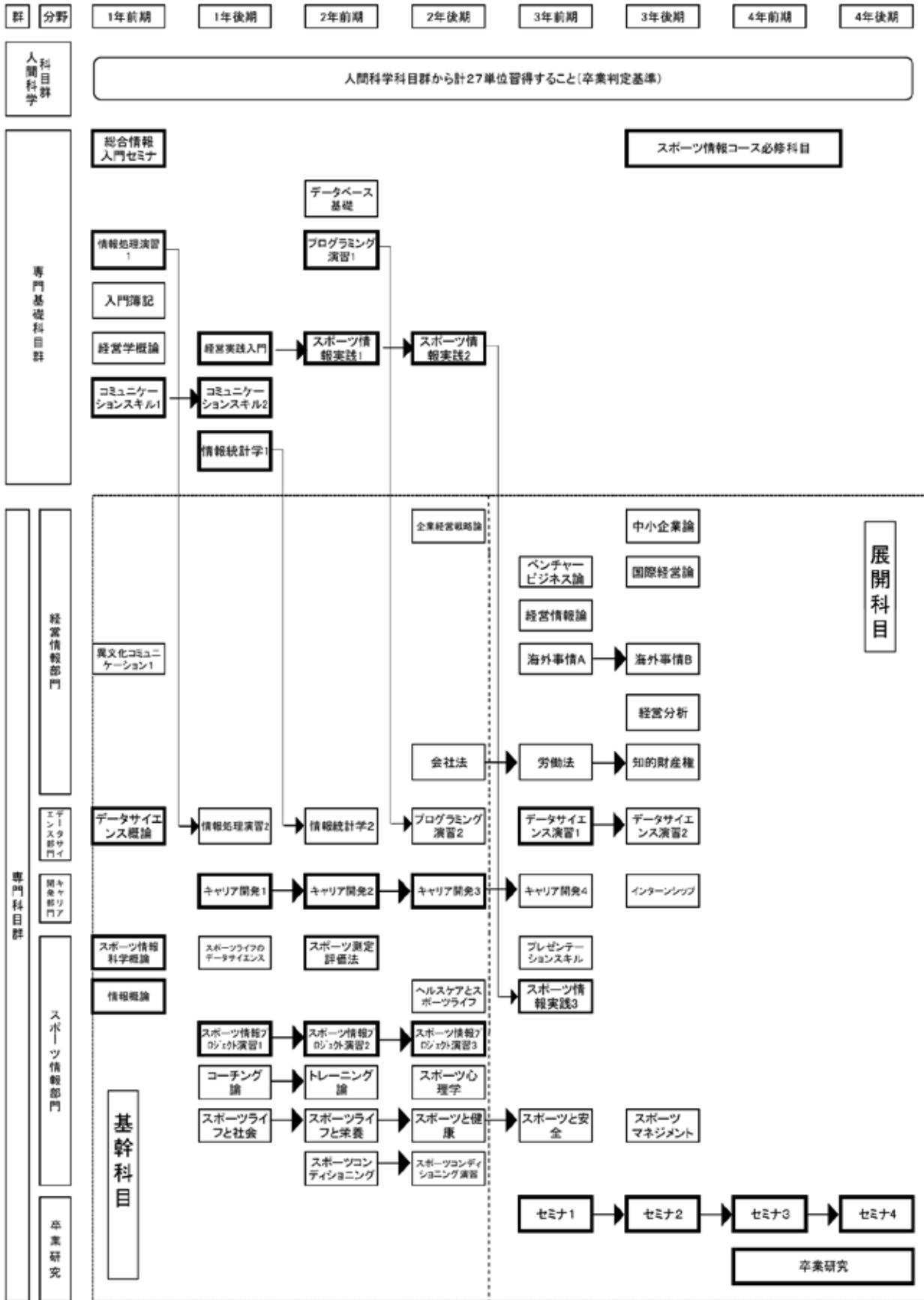


図-2.1 総合情報学科 スポーツ情報コース カリキュラム・フローチャート

6. 履修モデル

総合情報学科では、「1. 学科の目的」および「2. 教育の目的と学位授与の方針」で述べた人材を育成するために二つの履修モデルを用意しています。一つ目は企業経営の分野で、人、物、金、情報のマネジメントを行える人材を育成するための経営情報コースの履修モデルです。二つ目は、スポーツを通して組織の運営を行える人材を育成するためのスポーツ情報コースの履修モデルです。

両モデル共に、1, 2 年次では主に基幹科目を学ぶときに必要な基本知識を習得しますが、経営情報コースでは簿記・会計の資格取得を目指すために、1 年次から専門基礎科目及び専門科目の中の科目を履修し、3年次の受験を目指します。

スポーツ情報コースの履修モデルでは、スポーツを通して組織の運営を行える人材を育成するためにスポーツと社会との関係を学ぶ科目に加え、スポーツ指導者資格取得を目指すための科目を用意しています。

経営情報コース履修モデル

この履修モデルは、企業経営の分野で、人、物、金、情報のマネジメント能力を兼ね備えた人材を育成するための科目が選置されています。企業経営に関する基礎的理解の上に、企業経営の企画、戦略に不可欠な経営学及び経営情報処理に関する領域での実践的な学修を目指しており、開講されている科目を学年進行とともに順次体系的に履修していくことで問題解決能力を兼ね備え、ビジネス界のニーズに応えたカリキュラムで、これからの社会に支持される新ビジネスの創造を目指す人材育成を目標にしています。

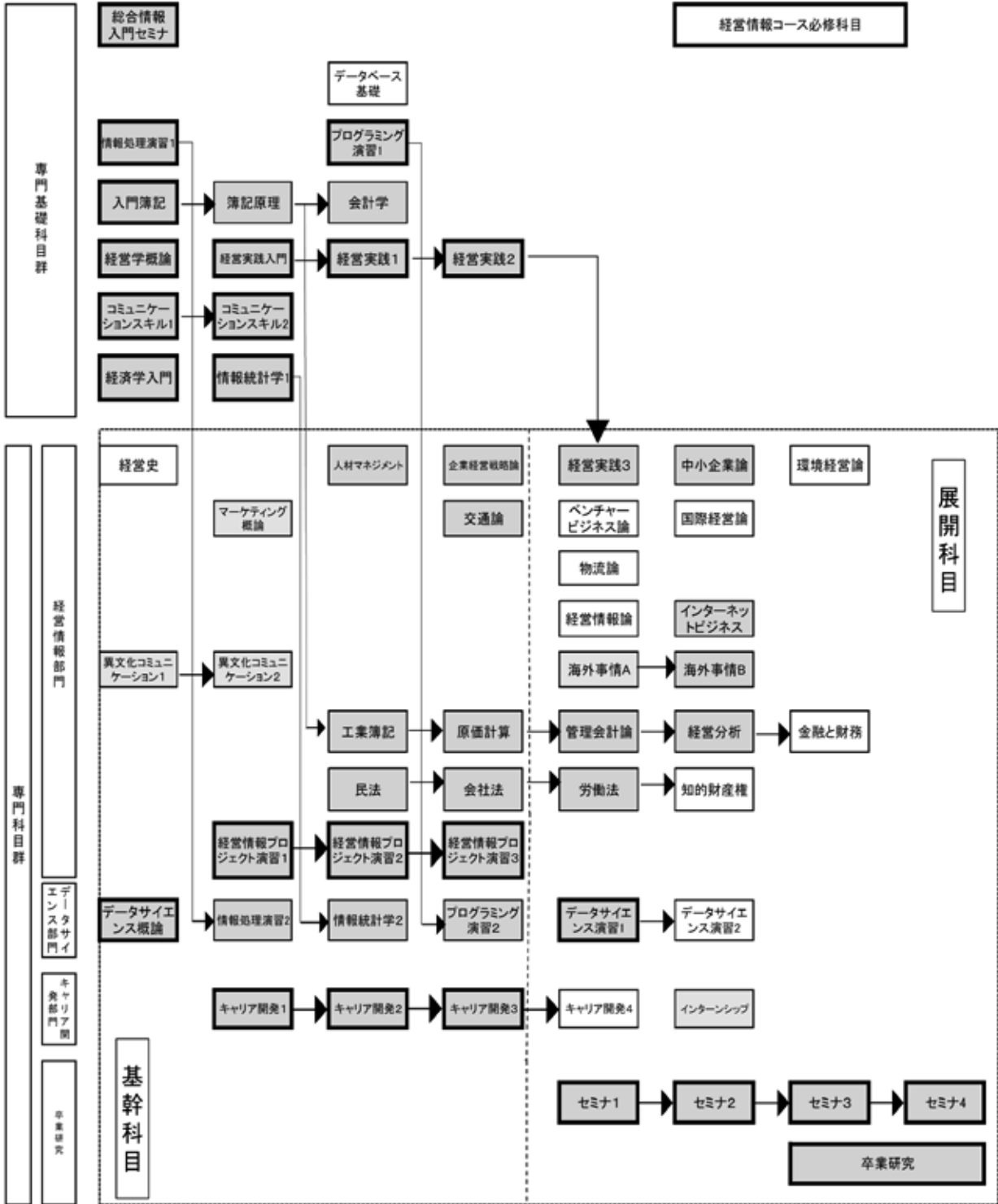
スポーツ情報コース履修モデル

この履修モデルはスポーツを通じて実社会における組織のマネジメントを行える人材を育成するための科目が配置されています。スポーツ関連の理論と実践の科目を中心に、スポーツ情報系のデータサイエンスを学ぶことで、スポーツ実践とスポーツ指導に活用できる実践スキルを習得します。さらにコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルなどを学び、子供から高齢者までを対象とした地域スポーツクラブやスポーツ指導者、コーチ、組織経営を理解したマネジメントスタッフを養成します。本履修モデルはスポーツに精通し、かつ地域社会で活躍できる人材の育成を目標とします。

総合情報学科 経営情報コース履修モデル

群	分野	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
---	----	------	------	------	------	------	------	------	------

人間科学
科目群
人間科学科目群から計27単位習得すること(卒業判定基準)

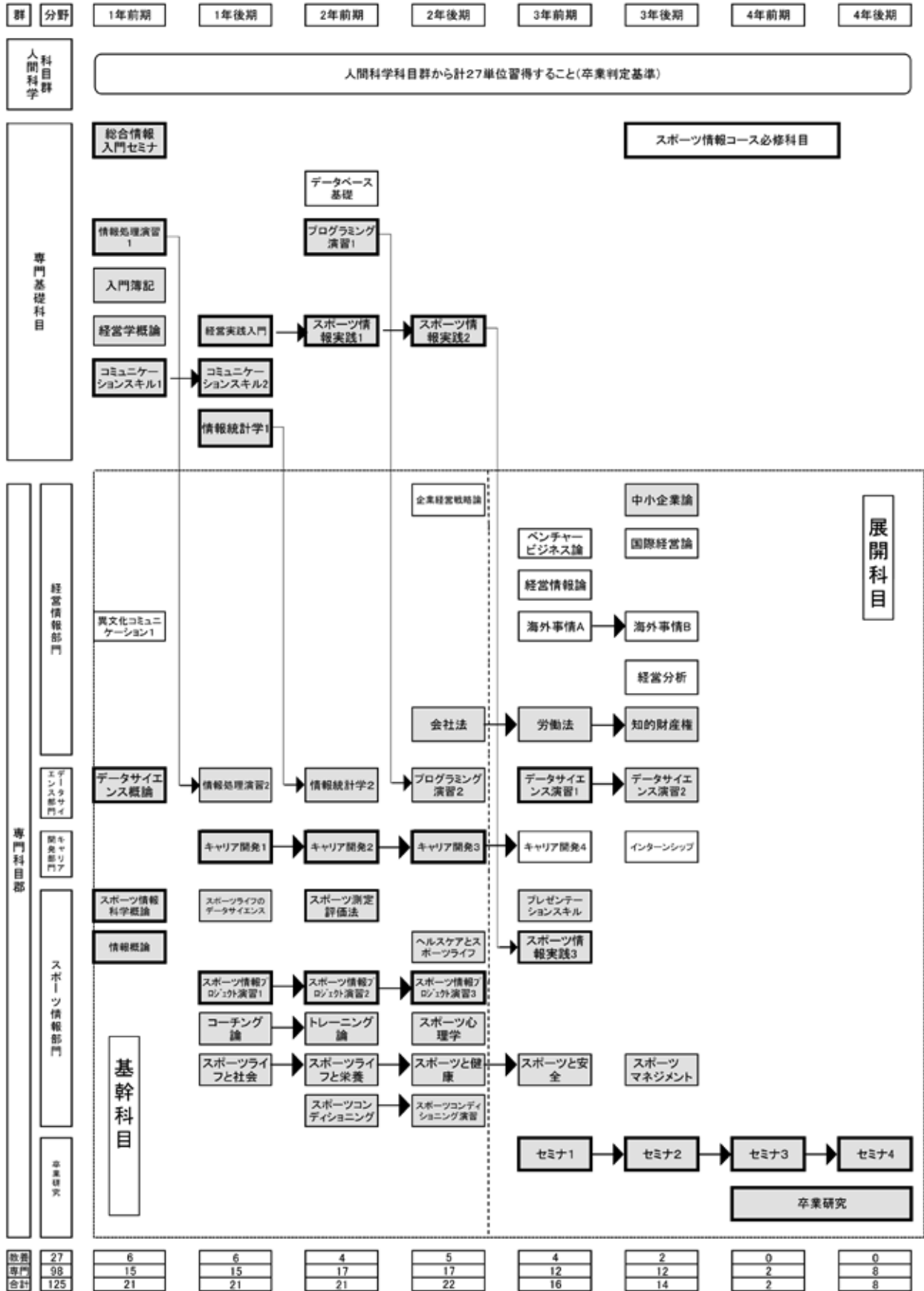


教養	27	6	4	6	5	4	2	0	0
専門	98	15	17	15	15	12	14	2	8
合計	125	21	21	21	20	16	16	2	8

☆この図は履修モデルの一例を示したものです。実際に履修するときには、自分の考えで履修科目を選んで下さい。

※ 網掛けは履修推奨科目

総合情報学科 スポーツ情報コース履修モデル



☆この図は履修モデルの一例を示したものです。実際に履修するときには、自分の考えで履修科目を選んで下さい。

※ 網掛けは履修推奨科目

情報学部 総合情報学科 カリキュラムマップ

<p>大学の目的</p> <p>大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。</p>

<p>学部の教育研究上の目的</p> <p>情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。</p>
--

<p>学科の教育研究上の目的</p> <p>情報学部総合情報学科は、情報化社会に対応しつつ、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p>
--

学科の学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	I. 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる。
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。	J. データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に活用できる。
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	K. 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている。
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	L. 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができる。かつ問題解決のために応用できる。
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	M. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	
	H. 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1	②	スタディ・スキルズとは、ノート・テイキング、リーディングのスキルと文章要約、図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践	高校と大学の学びの違いが理解できる。 ノートの取り方が効果的にできる。 文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。 図書館の利用法がわかる。 レポートの作成の必要手順が分かる。 基本的なレポートの作成ができる。 プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。 プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。
					授業科目の貢献度	
					この授業では、高等学校までに学んだ英語を土台として、英語のリーディングおよびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEICテストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得していただきます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEICに出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を大まかに理解できる。 英文を読み、その内容を大まかに理解できる。 基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができます。 基礎的な英文をでき得る限り正確に音読することができます。
					授業科目の貢献度	
					この授業では、前期に開講されている資格英語1の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEICテストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得していただきます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEICに出題される語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができます。 基礎的な英文を正確に音読することができます。
					授業科目の貢献度	
	この授業では、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「異文化理解」「食」「芸術」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で程度伝達することができる。				
	授業科目の貢献度					

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
		10												10
		10												10
		10												10
		10												10
		10				10								20
		10				10								20
		10				10								20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
10	8					2								20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
10	8					2								20
10	6		2			2								20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
					英語スキル2	1
英語スキル3	1	3	4	「英語スキル1-2」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発音する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する対話文の大きな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	
英語スキル4	1	4	5	この授業では、前期に開講されている英語スキル3の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発音する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	
実践英語1(資格コース)	1	5	5	この授業では、1-2次に学んだ「資格英語1-2」、「英語スキル1-2」、「英語スキル3-4」を踏まえ、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEICで高得点を取るために必要な最低限の語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容をほぼ理解できる。 英文を読み、その内容をほぼ理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文をほぼ正確に音読することができる。	
実践英語1(スキルコース)	1	5	5	この授業では、1-2次に学んだ「資格英語1-2」、「英語スキル1-2」、「英語スキル3-4」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、基礎的な理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の大きな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	
実践英語2(資格コース)	1	6	6	この授業では、前期に開講されている実践英語1(資格コース)の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEICで高得点を取るために必要な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を短時間に解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。	
実践英語2(スキルコース)	1	6	6	この授業では、前期に開講されている実践英語1(スキルコース)の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
12	8												20	
12	8												20	
12	8												20	
10	8					2							20	
10	6		2			2							20	
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	100	
14	6												20	
12	5					3							20	
12	5					3							20	
12	5					3							20	
12	5					3							20	
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	100	
10	7		2	1									20	
12	8												20	
12	8												20	
12	8												20	
12	2					6							20	
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	100	
12	8												20	
12	8												20	
12	8												20	
12	8												20	
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	
12	8												20	
12	8												20	
12	8												20	
12	8												20	
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	
12	8												20	
12	8												20	
12	8												20	
12	8												20	
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標	
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A (卓球)	1		1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつなげるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。	
							対人ラリーが20球続けられる。	
							フォアハンドロングによるラリーができる。	
							バックハンドによるショットのつなぎができる。	
							相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。	
		目的の位置にサーブを打つことができる。						
		得点の数え方および審判ができる。						
		授業科目の貢献度						
		正確なグリップでラケットを握ることができる。						
		オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。						
		アンダーハンドストロークが出来る。						
		ネットプレーによるつなぎが出来る。						
		スマッシュを打つ事が出来る。						
		目的の位置にサーブを打つ事が出来る。						
		得点の数え方および審判が出来る。						
		授業科目の貢献度						
正確なグリップでラケットを握ることができる。								
フォアハンドストロークによるラリーができる。								
フォアハンドストロークを打つことができる。								
フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。								
バックハンドボレーを打つことができる。								
アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。								
得点の数え方および審判ができる。								
授業科目の貢献度								
積極的に運動ができた。								
自分の体と向きあうことができた。								
ゴール型スポーツの構造を理解できた。								
サッカー・フットサルのルールを理解できた。								
授業科目の貢献度								
正確なグリップでラケットを握ることができる。								
対人ラリーが20球続けられる。								
フォアハンドロングによるラリーができる。								
バックハンドによるショットのつなぎができる。								
相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。								
目的の位置にサーブを打つことができる。								
得点の数え方および審判ができる。								
授業科目の貢献度								
正確なグリップでラケットを握ることが出来る。								
オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。								
アンダーハンドストロークが出来る。								
ネットプレーによるつなぎが出来る。								
スマッシュを打つ事が出来る。								
目的の位置にサーブを打つ事が出来る。								
得点の数え方および審判が出来る								
授業科目の貢献度								

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	6	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		30											30
		30											30
					20								20
					20								20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) (必修/選択/自由)	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習B (保健科学実習)	1	2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつなげるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
						フォアハンドストロークによるラリーができる。
						フォアハンドストロークを打つことができる。
						フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
						バックハンドボレーを打つことができる。
						アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
						得点の数え方および審判ができる。
						授業科目の貢献度
						積極的に運動ができた。
						自分の体と向きあうことができた。
					ゴール型スポーツの構造を理解できた。	
					サッカー・フットサルのルールを理解できた。	
					授業科目の貢献度	
					叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。	
					題材を批評的に検討して自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して文章にまとめる。	
					文学的・社会的な観点から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。	
					日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。	
					文学的文章を通して視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。	
					授業科目の貢献度	
					叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。	
					題材を多角的に検討して自分の考えを持ち、課題に応じて自分の考えを表現する。	
					文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。	
					日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。	
					文学的文章を通して視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。	
					授業科目の貢献度	
					活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。	
					文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。	
					文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。	
					自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。	
					文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。	
					授業科目の貢献度	
					活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。	
					文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。	
					文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。	
					文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。	
					文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。	
					授業科目の貢献度	
					プラトン哲学におけるイデア論について説明できる。	
					デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。	
					啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。	
					西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。	
					知的リフレッシュメントを味わうことができる。	
					授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
			20										20
			15										15
			10										10
			10										10
			10										10
			15										15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
			30										30
			30										30
					20								20
					20								20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	100
													20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
													20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
													30
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
													20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	哲学B	2	2・4・6	モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。
						哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。
						「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。
						おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。
						自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。
						授業科目の貢献度
	文化人類学A	2	3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	現代における人間像について様々な角度から考えることができる。	
					様々な文化を比較することができる。	
					習慣の意味が理解できる。	
					形のないものの価値について考えることができる。	
					現代社会がかかえる問題点について考えることができる。	
					授業科目の貢献度	
文化人類学B	2	4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化すると変化しないものを区別する。	アイデンティティとは何かについて理解できる。		
				文化について様々な考え方が理解できる。		
				現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。		
				「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考察することができる。		
				コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。		
				授業科目の貢献度		
歴史学A	2	1・3・5	日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。		
				国際環境と関連つけて日本の近代史を理解できる。		
				西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。		
				歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。		
				過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。		
				授業科目の貢献度		
歴史学B	2	2・4・6	近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。		
				東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。		
				日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。		
				歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。		
				過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。		
				授業科目の貢献度		
心理学A	2	1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。		
				学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。		
				欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。		
				発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。		
				パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。		
				授業科目の貢献度		
心理学B	2	2・4・6	他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。		
				人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。		
				対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。		
				集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。		
				集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。		
				授業科目の貢献度		

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	教育原理	2	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。 近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。 教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。 近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。
					「教育」という営みをおとしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのある様を捉えたと同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、認知・感情・社会性(愛着など)の発達の様相を把握することができる。 発達上の「青年期」の特徴を理解し、青年にまつわる現代の問題について心理学的な観点から考察することができる。 条件づけや観察学習、記憶の基本的なメカニズムを理解することができる。 欲求と適応(不適合)との関係、およびフラストレーション・コンフリクトの発生メカニズムを理解することができる。 動機と動機づけの違い、および達成動機と親動機の関連について理解することができる。 [リーダーシップ] や [ソシオメトリー] などの観点から、学級集団の特徴・構造を把握することができる。 生徒の「問題行動」の内容・実態を把握し、それらへの対応策について心理学的な観点から考察することができる。 [パーソナリティ] 概念、およびそのとらえ方を理解することができる。
		教育心理学	2	3	政治学の基礎概念(政治、権力、国家など)を理解する。 自由民主主義の理論と政治制度について理解する。 議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。 政治制度の基本的枠組み(国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など)を理解する。 自分と政治との関わりについて考えることができる。	授業科目の貢献度
					政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。 現代民主主義の理論的特徴について理解する。 現代民主主義の制度的特徴について理解する。 現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。 授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
		政治学A	2	3・5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	授業科目の貢献度
					政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。 現代民主主義の理論的特徴について理解する。 現代民主主義の制度的特徴について理解する。 現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。 授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
	政治学B	2	2・4・6	現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	授業科目の貢献度	
				現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。 資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。 経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。 経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。	
	経済学A	2	1・3・5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的思想法を身に着ける。	授業科目の貢献度	
				経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的思想法を身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。 日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。 歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。 日本の企業の特徴・構造について説明できる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。	
	経済学B	2	2・4・6	現代日本の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通して、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	授業科目の貢献度	
				現代日本の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通して、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。 授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。 授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。 日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。	
法学A	2	3・5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業科目の貢献度		
			法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。 授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。 授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。 日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。		

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
				30										30
				30										30
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			10											10
			10	10										20
			10											10
			10											10
			10	10										20
			10											10
0	0	0	80	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30										30
				10										10
				20										20
				10										10
				30										30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30										30
				20										20
				10										10
				10										10
				30										30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	法学B	2	4・6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。
						日本国憲法の基本原則が説明できる。
		社会学A	2	1・3・5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。
						基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。
		社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	表現の自由とその制約原理を説明できる。
						違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。
		社会調査の方法A	2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	社会学のイメージをつかむ。
						社会学のイメージをつかむ。
		社会調査の方法B	2	4・6	社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施(調査設計、データ収集、データ分析)に必要な知識を学び、それを活用してみる。	方法論的個人主義(ヴェーバー)と方法論的集団主義(デュルケム)の違いを理解する。
						社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる。
現代社会論A	2	3・5	ある特定の国や地域(日本を含む)について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する。		
				東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること。授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。		
現代社会論B	2	4・6	ある特定の国や地域(日本を含む)について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、社会的・思想的・文化的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業科目の貢献度		
				社会学が持つ分析手法(量的・質的)や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。		

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
				10										10
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
				10										10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30										30
				20										20
				20										20
				10										10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				30										30
				10										10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標	
人間科学科目群	Bグループ	教育社会学	2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会的なものの方眼によって考察することができる。 学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。 教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。 学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。	
		健康科学A	2	1・3・3・5	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。	体の仕組みについて理解できる。 発育の仕組みについて理解できる。 年齢とからだの関係について理解できる。 健康について理解できる。 健康に対する取り組みについて理解できる。	
	健康科学B	2	2・4・4・6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	身体の動く仕組みについて理解できる。 人体の構造について理解できる。 障害について理解できる。 傷害について理解できる。 体力について理解できる。		
	認知科学A	2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。 知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。 認知機能の神経機構について説明することができる。 ヒューマンエラーの原因について説明することができる。 認知科学の哲学的な問題を説明することができる。		
	認知科学B	2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。 我々が当たり前に行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。 記憶のメカニズムや分類について説明することができる。 自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。 ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。 ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる。		
	環境科学A	2	3・5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。 地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。 地球環境問題対策を理解する。 地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。		
	環境科学B	2	4・6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	海洋と大気を総論的に理解する。 太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。 生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。 生命の生存条件を理解する。		
	自然科学概論A	2	1・3・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。 科学リテラシーの必要性を理解できる。 近代科学の特徴を説明できる。 20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。 科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。		
	授業科目の貢献度						

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10									10
			10	10									20
			10	10									10
		10	10	10									30
		10	10	10									30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		10	10										20
		10	10										20
			10	10									20
			10	10									20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					10								10
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	自然科学概論B	2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。 物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。 現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。 現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。 未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわり合いを展望できる。 授業科目の貢献度
		生物学A	2	3・5	生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	生物学、進化生物学、行動学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と、それらを融合した保全生物学に応用する思考方法を理解することができる。 生物多様性のメカニズムについて説明することができる。 遺伝的多様性の必要性について説明することができる。 生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。 環境保全の必要性を理解し、自らと異なるヒトの考え方や文化的多様性、生物の多様性について理解を試み、共存方法を模索できる。 授業科目の貢献度
		生物学B	2	4・6	動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する。	進化的理論や行動学、社会生態学、生理学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と生物の進化メカニズムを理解することができる。 ヒトの進化史を大まかに説明することができる。 自然選択における環境と生物の関係について説明することができる。 性選択と自然選択の違いについて説明することができる。 脳やホルモン、遺伝子による行動への影響について理解することができる。 授業科目の貢献度
		地球科学A	2	3・5	地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。 最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。 鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。 水の特性から生物に与える影響が理解できる。 古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。 地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。 授業科目の貢献度
		地球科学B	2	4・6	地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する。	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。 様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。 地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。 日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。 太陽系の進化から地球の未来像を把握する。 授業科目の貢献度
		リベラルアーツ 特別講義	2	集中講義9月	現代ヨーロッパの政治的動向と国際関係を学び、わが国を取り巻く国際環境と進路選択と関連づけて考察する。	理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。 問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。 国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。 授業科目の貢献度
		リベラルアーツ 実践演習A	2	3・5	少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。 諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。 課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。 自らの課題に対して解決まで導くことができる。 コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。 授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					40								40
					20								20
					40								40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	リベラルアーツ実践演習B	2	4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。 諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。 課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。 自らの課題に対して解決まで導くことができる。 コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の意を伝えることができる。 授業科目の貢献度
		教養総合講座A	2	3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠なCSR (Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任) を共に考える。	現代の問題群を整理することができる。 ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。 課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。 これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。 授業科目の貢献度
		教養総合講座B	2	4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	現代の問題群を整理することができる。 ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。 課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。 問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。 授業科目の貢献度
		入門セミナー	1	1	本セミナーは、専門課程への関心と興味を喚起する導入科目であり、学生と教員および学生間の良好なコミュニケーション形成の場でもある。授業では、学外見学会、講演会、スポーツを通じた交流などを行うとともに、総合情報学科で学んだ知識を社会で活用するための将来像が早い段階から描けるようキャリアガイダンスを行う	総合情報学科で学ぶ内容について、自身が感じる興味を説明できる。 総合情報学科で学ぶ内容が社会でどのように活かすのかを説明できる。 おおまかに自身の将来像を説明できる。 授業科目の貢献度
		スキル1	2	1	「話す」「書く」両方の面から、他人とのコミュニケーションを円滑にしたり、自分の考えを主張するための方法を学ぶ。	価値観や考え方の違う人とも対話ができる。 コミュニケーションの双方向性が理解できる。 人前で自分の考えを表現することができる。 TPOにあわせた表現ができる。 論理的な説明の仕方が理解できる。 授業科目の貢献度
		スキル2	2	2	レポートや小論文など、人の目に触れる文章を書くための文章力を高めるスキルを学ぶ。また、書くことで考えを深めて表現することなどを目的として、具体的に実践を行いながら書くスキルを高める。	書き言葉と話し言葉の違いが理解できる。 適切な言葉や話題を選ぶことができる。 論理的な表現ができる。 取材したり文献を引用したりして考察することができる。 簡潔かつ的確に要旨をまとめることができる。 授業科目の貢献度
専門基礎科目群		情報処理演習1	2	1	Windows PCの基礎知識を身につけることを目的として、PCのハードウェア構成から大学内のPC・ネットワークを活用する方法および電子メールやレポート作成、卒業研究などで活用するソフトウェア (Microsoft Office) を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションを学ぶ。	コンピューターのハードウェアの基礎を説明できる。 電子メールの作成、送信、受信ができる。 Wordを用いて文章の作成ができる。 Excelを用いてグラフの作成や計算ができる。 PowerPointを用いてプレゼンテーションができる。 授業科目の貢献度
		データベース	2	3	I Tパスポート試験、基本情報処理技術者試験問題のデータベースに関する分野を学ぶ。そのうち、SQL文法に関する部分では、Accessを用いて実習することにより理解を深める。しかし、あくまでもSELECT文の理解のためであり、ソフトウェアとしてのAccessの実践能力を得るものではない。そのため、Accessの機能のうち、SQL言語を直接利用する機能だけを利用する。	I Tパスポート試験、基本情報処理技術者試験問題のデータベースに関する分野を理解できる。 Accessを用いてSQL言語の基本を理解できる。 授業科目の貢献度
		プログラミング演習1	2	3	プログラミングの基礎を学ぶ。また、学んだ文法を組み合わせて練習課題として与えられたプログラムを完成させる。	関数の定義について説明できる。 プログラムの手続きについて説明できる。 基礎的な文法と配列、文字列、関数を用いてプログラムを作成できる。 授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
						20							20	
						20							20	
						20							20	
						20							20	
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100	
						20							20	
						20							20	
						20							20	
						40							40	
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100	
						20							20	
						20							20	
						20							20	
						40							40	
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100	
							10					10	20	
							10				10	20	40	
							10				10	20	40	
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	20	50	100	
							10	10					20	
							10	10					20	
							10	10					20	
							10	10					20	
0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	0	100	
							10	10					20	
							10	10					20	
							10	10					20	
							10	10					20	
0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	0	100	
							10					5	15	
							10	15				5	30	
							10					5	15	
							10		10			5	25	
							10					5	15	
0	0	0	0	0	0	0	50	15	10	0	0	25	100	
							10	10	20			10	50	
							10	10	20			10	50	
0	0	0	0	0	0	0	20	20	40	0	0	20	100	
									20		10		30	
									20		10		30	
									20		10	10	40	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	30	10	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修/選択/自由	開講期	学修内容	学修到達目標								
専門基礎科目群	情報統計学1	2		2	社会で用いる基礎的統計について学習する。まず、データの単位、有効数字、作業、作図(グラフ)について学ぶ。つぎに、平均、分散、標準偏差によるデータの要約化を学ぶ。第3に、母集団から適切なサンプルを取り出す方法を学ぶ。最後に、顧客の満足度を把握する調査法を学ぶ。	データの要約と視覚化ができる。 データの平均、分散が解析できる。 母集団とサンプルの関連を説明できる。 基礎的な相関分析と回帰分析が理解できる。								
					授業科目の貢献度	企業の意味や企業の存在意義を理解できる。 企業を構成している要素とこれらの動きを理解できる。 企業における人、モノ、金を管理する制度を理解できる。 企業における組織と戦略の関係を理解できる。								
					0	0	0	0	0	0	0	0	40	20
	経営学概論	2	(経営情報コース)	2	1	「企業とは何か」、「企業の存在意義は何か」、「企業はどのような仕組みで動いているのか」といった経営に関する基礎を学習すると共に、経営の基礎的部分である「人」、「モノ」、「金」を管理するための制度やそれに関する法規を学ぶ。その上で、企業が組織や戦略の決定を行うプロセスを解説する。また、現代の企業が抱える問題に連れ、社会や経済の変化を踏まえつつ、今後の企業経営のあり方を考える。なお、本講義においては、企業経営の理解を深めるため、多くの事例を用いる。	企業の意味や企業の存在意義を理解できる。 企業を構成している要素とこれらの動きを理解できる。 企業における人、モノ、金を管理する制度を理解できる。 企業における組織と戦略の関係を理解できる。 企業を取り巻く環境変化を把握し、今後の企業経営のあり方について説明できる。							
						授業科目の貢献度	経済における家計と消費について理解できる。 経済における企業と生産について理解できる。 経済における市場メカニズムについて理解できる。 経済における政府の役割について理解できる。 経済における新しい視点について理解できる。							
						0	0	0	0	0	0	0	50	0
	経済学入門	2	(経営情報コースのみ)	2	1	経済学の分析対象が人や人の集合であることを認識し、家計、企業、政府の役割や関係を理解した上で、様々な経済活動を市場メカニズムや政府の役割の視点から学ぶ。	経済における家計と消費について理解できる。 経済における企業と生産について理解できる。 経済における市場メカニズムについて理解できる。 経済における政府の役割について理解できる。 経済における新しい視点について理解できる。							
						授業科目の貢献度	複式簿記の意義・目的について概説できる。 複式簿記の原理を利用した仕訳ができる。 手形や有価証券の内容を理解し、これらの処理ができる。 債権・債務の内容を理解し、これらの処理ができる。 決算における仕訳や帳簿システムについて、その基本を理解できる。							
						0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入門簿記	2	(経営情報コースのみ)	2	1	複式簿記の基本的な考え方や用語等、簿記に関する基礎知識を身につけると共に、簿記の基本的な技法、商品売買取引などの基本的な会計処理方法を学ぶ。また、講義の最終段階には単純な帳簿や仕訳帳の作成ができるようになることを目標とする。	複式簿記の意義・目的について概説できる。 複式簿記の原理を利用した仕訳ができる。 手形や有価証券の内容を理解し、これらの処理ができる。 債権・債務の内容を理解し、これらの処理ができる。 決算における仕訳や帳簿システムについて、その基本を理解できる。							
						授業科目の貢献度	複式簿記の手続きを理解できる。 商品売買取引の処理ができる。 決算整理の記帳処理ができる。 特別仕訳帳制の記帳処理ができる。							
						0	0	0	0	0	0	0	0	0
簿記原理	2	(経営情報コースのみ)	2	2	「簿記入門」で学んだ内容を踏まえ、複式簿記の一連の手続きや商品売買取引の処理を習得する。その上で、各種取引の記帳と帳簿組織の理解に重点をおいて講義する。最終的には、各種の取引の記帳処理、決算整理の記帳処理、特殊仕訳帳制の記帳処理ができることを目標とする。	複式簿記の手続きを理解できる。 商品売買取引の処理ができる。 決算整理の記帳処理ができる。 特別仕訳帳制の記帳処理ができる。								
					授業科目の貢献度	会計の意義・目的について説明できる。 会計的なもの見方を身につけ、これを説明できる。 損益計算書、貸借対照表について理解できる。 財務諸表の見方について理解ができる。								
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
会計学	2	(経営情報コースのみ)	2	3	企業会計の基本となる考え方と、それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とする。さらには記録された情報から、企業活動を読み取る知識も習得する。	会計の意義・目的について説明できる。 会計的なもの見方を身につけ、これを説明できる。 損益計算書、貸借対照表について理解できる。 財務諸表の見方について理解ができる。								
					授業科目の貢献度	経営学について興味をもつことができる。 経営学における基本的な理論が理解できる。 経営学におけるヒトの行動が理解できる。 経営学におけるモノの流れが理解できる。 経営学におけるカネの流れが理解できる。								
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
経営実践入門	2		2	2	企業を経営するという方法について経営全体のフローが理解でき、自ら経営学に対する目的意識を確立し、経営学の実践を学ぶために必要な基礎的な方法ビジネスナーを学ぶ。	経営学について興味をもつことができる。 経営学における基本的な理論が理解できる。 経営学におけるヒトの行動が理解できる。 経営学におけるモノの流れが理解できる。 経営学におけるカネの流れが理解できる。								
					授業科目の貢献度	知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。 自分が理解したことを記述して端的に表現できる。 自らのスキルを効果的に実践できる。 習得した知識を活かし成果を上げることができる。								
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経営実践1	2	(経営情報コースのみ)	2	3	経営の実践的な活動を通じ、知識を行動に変えるための基本的な技術やマナーを学び、変化する目の前の現実と向き合い、考え、判断、行動ができる人材になることを学ぶ。	知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。 自分が理解したことを記述して端的に表現できる。 自らのスキルを効果的に実践できる。 習得した知識を活かし成果を上げることができる。								
					授業科目の貢献度									
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
									10	10	5	5	30
									10		5	5	20
									10	5	5	5	20
									10	10	5	5	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	20	20	100
							10			10			20
							10			10			20
							10			10			20
							10			10			20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	50	0	0	100
									10		10		20
									10		10		20
									10		10		20
									10		10		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										25			25
										25			25
										25			25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										15			15
										15		20	35
										15			15
										15	20		35
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40	100
							5			5		10	20
							5			5		10	20
							5			5		10	20
							5			5		10	20
0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	25	0	50	100
								10				15	25
								10				15	25
								10				15	25
								10				15	25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	60	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)	開講期	学修内容	学修到達目標												
専門基礎科目群	スポーツ情報実践1	2 スポーツ情報実践1	2	3	スポーツにおける楽しみや、個人の健康を維持・増進させるための運動プログラムを考え、実際の活動を通じ、自らが考え、判断し、実践できる人材になることを学ぶ。	情報を他人にわかりやすく伝えることができる。 理解したことを記述して正確に表現できる。 自らのスキルを効果的に実践できる。 習得した知識を活かし成果を上げることができる。												
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	30	0	0	20	20	30	100
					グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。 グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。 グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。 グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。													
	スポーツ情報実践2	2 スポーツ情報実践2	2	4	経営の実践的な活動を通じ、グループの中で協力し、知識を行動に変えるための基本的な技術やマナーを学び、変化する目の前の現実と向き合い、考え、判断、行動ができる人材になることを学ぶ。	グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。 グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。 グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。 グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。												
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	30	0	0	20	20	30	100
					グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。 グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。 グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。 グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。													
スポーツ情報実践2	2 スポーツ情報実践2	2	4	様々な年代におけるスポーツの実践的な活動を通じ、グループの中で協力しアイデアを導き出し、それぞれの役割のもとにチームで考え、判断し、実践できる人材になることを学ぶ。	グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。 グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。 グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。 グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。													
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	60	100	
				グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。 グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。 グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。 グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。														
専門科目群	基礎科目	キャリア開発1	1	2	1年次生からの「自己発見」の取り組みが、自分のキャリア形成に極めて重要であることを実践的に学ぶ。また自分の学生生活を自己責任において確立していく大切さを学ぶと同時に、自ら発見し、自ら語ることの重要性を学ぶ。	キャリアデザインを行なう上での基本的な考え方を説明できる。 自分自身で学生生活を創ることの大切さを理解できる。 大学で学ぶ意味を考え、目標を検討することができる。 大学での学びが、自分の将来に繋がることを理解できる。 社会生活を営む上で重要となる他者と協力し、関係を構築することの大切さを理解できる。												
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	75	25	0	0	0	0	100
					自分を知り、自分を表現できる。 他者とかわり、関係を構築できる。 職業観を養い、表現できる。 自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。 目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つことができる。													
		キャリア開発2	1	3	自分の個性、生き方、将来を見つめながら、次に必要な「意識と自覚」を修得する。また、自分を活かすための「自己現状分析」を行うことにより、将来を見据えた具体的な計画を立案し、目標達成までのプロセスの重要性とその実行方法について学ぶと同時に、自己表現できる能力を身に付ける。	自分を知り、自分を表現できる。 他者とかわり、関係を構築できる。 職業観を養い、表現できる。 自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。 目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つことができる。												
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	70	30	0	0	0	0	100
					自分を知り、自分を表現できる。 他者とかわり、関係を構築できる。 職業観を養い、表現できる。 自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。 目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つことができる。													
	キャリア開発3	1	4	自己分析を更に展開し、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	社会で生きていくために、社会を知り、将来に向けて自分の人生を切り拓いていく考え方や基礎力を身に付け、その重要性を理解することができる。 職場や地域社会の中で、多様な人々と共生するために必要となる人間力を身に付け、その重要性を理解することができる。													
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	60	30	0	0	0	10	100	
				自分を知り、自分を表現できる。 他者とかわり、関係を構築できる。 職業観を養い、表現できる。 自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。 目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つことができる。														
	経営情報プロジェクト演習1	2	2	この科目は、3期に開講される経営情報プロジェクト演習2の基礎となる科目で、学生個人で成果物を作成する力を身につけるものである。この科目では、経営情報学で学ぶ内容に関連するテーマを設定し、学生が自分自身で問題を抽出する。資料調査・問題点抽出・提案に至るプロセスを通じて各個人の成果物を作成し発表するのに加え、発表会において問題意識をもって他の学生のプレゼンテーションを聞き、適切な質問を行うことができる力を養う。	経営情報に関連する研究の動向が理解できる。 経営情報に関連する産業界の動きが理解できる。													
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	40	20	0	0	20	20	100	
				スポーツにおける個々の課題を明確に抽出できる。 スポーツにおける個々の課題に対する対策を立案することができる。														
経営情報プロジェクト演習2	2	3	3期にわたるスポーツ情報プロジェクト演習の基礎となる科目で、スポーツにおける個々の課題を抽出し、その課題に対して適切な対策を考え、それを実際の現場で実践することで、それぞれが抱える個々の課題を解決する能力を身につける。	経営情報に関連する課題の抽出方法が理解できる。 経営情報に関連する課題の調査、データ整理、分析の方法を理解できる。 得られた結果を基にして考察した内容を分かりやすく説明できる。														
			授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100		
			課題の抽出方法が理解できる。 課題の調査、分析の方法を理解できる。 得られた結果を基にして対策内容を分かりやすく説明できる。															
スポーツ情報プロジェクト演習2	2	3	スポーツにおける課題を様々な手法で見つけ出し、それらを調査、分析、評価することで問題点を明らかにし、その具体的な対策を立てる実践することで、問題解決能力を身につける。	課題の調査、分析の方法を理解できる。 得られた結果を基にして対策内容を分かりやすく説明できる。														
			授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	30	0	20	10	10	30	100		
			課題の抽出方法が理解できる。 課題の調査、分析の方法を理解できる。 得られた結果を基にして対策内容を分かりやすく説明できる。															

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
							10			10			10	30
							10			10			10	30
											10		10	20
											10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	20	20	30	100	
							10						15	25
							10						15	25
							10						15	25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	60	100	
							10			10			10	30
							10			10			10	30
											10	10	20	
											10		20	
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	20	20	30	100	
							15	10					25	
							15						15	
							15						15	
							15	15					30	
0	0	0	0	0	0	0	75	25	0	0	0	0	100	
							10	10					20	
							10	20					30	
							10						10	
							20						20	
							20						20	
0	0	0	0	0	0	0	70	30	0	0	0	0	100	
							30						40	
							30	30					60	
0	0	0	0	0	0	0	60	30	0	0	0	10	100	
							20	10		10	10		50	
							20	10		10	10		50	
0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	20	20	20	100	
							10				10	10	30	
							10				10	10	30	
							10	10			10	10	40	
0	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100	
							10			10			30	
							10		10				40	
0	0	0	0	0	0	0	30	0	20	10	10	30	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目 必修科目	2	経営情報プロセスの発展	必修	自由	4	経営情報に関する課題を自ら抽出できる。 経営情報に関する課題の調査、データ整理、分析を自ら実施できる。 得られた結果を基にして考察した内容を報告書にまとめ、その概要を説明できる。
						授業科目の貢献度
	2	スポーツ情報プロセスの発展	必修	自由	4	スポーツ活動に関わる様々なカテゴリーでのスポーツ実践においてそれぞれの課題や問題点を見つけ出し、その解決策や対策方法を考え、実際に指導・コーチングを行うことで、課題解決方法を見出し、自らの知識やスキルを高めることを目的とする。
						授業科目の貢献度
	2	情報概論	必修	自由	1	情報化の発展は、個人や社会に多大な恩恵をもたらす一方、扱い方を誤れば被害者や加害者にもなりかねない危険性もあわせ持つ。本講義では、日々変化し続ける情報通信社会を概観しながら、この機会を快適に過ごすための倫理観の修得を目指す。
						授業科目の貢献度
	2	異文化コミュニケーション	必修	自由	1	情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。
						授業科目の貢献度
	2	異文化コミュニケーション	必修	自由	2	人は、自己と他者の違い、自文化と他文化の違いを知ることにより、自分自身と自文化を理解する。異文化接触のありようを具体的かつ理論的に整理することをおとして、「違いを楽しむ」ことは重要である。この講義では、情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。
						授業科目の貢献度
	2	経営史	必修	自由	1	企業が登場してからの大きな歴史(主に15世紀以降)の流れを理解できる。 企業が登場するようになった社会や経済の変化を説明できる。 企業を取り巻く環境は、どのように変化してきたのかを歴史の視点から説明できる。 企業は時代と共に、企業の形態や戦略はどのように変化してきたのかを説明できる。 日本の企業の特徴がどのように形成されてきたのかを歴史の視点から説明できる。
						授業科目の貢献度
2	マーケティング概論	必修	自由	2	マーケティングに関する基本的な用語を理解できる。 マーケティングの必要性を説明できる。 企業経営におけるマーケティングの位置づけや役割を説明できる。 現実に行われているマーケティングの戦略を理解できる。 特定の企業あるいは製品について、自身が有効であると思われるマーケティング活動を考えることができる。	
					授業科目の貢献度	
2	人材マネジメント	必修	自由	3	経営における人材の重要性について説明できる。 経営における人事制度や労務管理制度の内容について説明できる。 日本と欧米との人材に対する考え方の違いを理解できる。 日本企業の人材制度や労務管理制度に関する近年の変化を説明できる。 今後の経済や社会の動向を踏まえた人事制度や労務管理制度について説明できる。	
					授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
							10				10	10	30
							10				10	10	30
							10	10			10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100
							10			10	10		30
							10		10		10		30
							10		10	10	10		40
0	0	0	0	0	0	0	30	0	20	20	30		100
							10	10					20
							10	10					20
							10	10					20
							10	10			10		30
0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	0	20	100
							10	10					20
							10	10					20
							15	15					30
0	0	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0	30	100
										20			20
										20			20
										20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										15			15
										15			15
										15			15
							10			15			25
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	75	0	15	100
										10			10
										15			15
										15			15
							15			15			30
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	70	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基礎科目	民法	2 2	3	市民と市民との間の権利と義務の関係を明確にする役割を担うと共に、財産取引と身分(夫婦・相続など)を規律する意味で、民法は重要な法律である。本講義においては、総則を中心に、民法における法律用語や基礎知識を習得すると共に、民法の意義や基本原理等を学習する。その上で、民法総則の各規定について、実例をできるだけ多く取り上げながら、日々の事象を民法の視点から考える。	民法の基本原則を説明できる。 民法の内容(概要)を説明できる。 企業経営における民法の重要性を理解できる。 企業経営において、民法が関係する具体的事象を説明できる。
		会社法	2	4	株式会社を対象に、株主総会・取締役会・代表取締役・監査役・委員会等設置会社などについて法律と現実とを対比させながら、企業の設立および運営の過程を具体的に学習する。その上で、具体的な企業運営として、資金調達や資本構成、計算、利益処分、会社組織の変更、清算などについても法律と現実との対比通して学ぶ。	商法および会社法の存在意義とその内容(概要)を説明できる。 企業の設立に関連する法規について説明できる。 企業組織に関連する法規について説明できる。 企業の運営に関連する法規について説明できる。
		交通論	2 2	4	交通サービスは、道路や空港などのインフラ整備、新規参入や運賃変更に対する規制、ルーラル地域の公共交通に対する公的助成などにみられるように、政府の関与(交通政策)の重要性が高い領域である。本講義では、わが国の交通事業の現状と課題を示すとともに、交通政策の根拠と課題、そして望ましいあり方について考察する。	一般の財・サービスに比較した交通サービスについて理解できる。 わが国の交通事業の現状と課題について説明できる。 経済と交通の結びつきについて説明できる。 一般道路・高速道路の整備制度について理解できる。 都市間(長距離)鉄道の課題について説明できる。 空港整備制度について理解できる。
		企業経営戦略論	2	4	経営戦略論は、企業の対外的なマネジメントの問題を扱う科目であり、経営戦略論の理論的枠組みの変遷を押し戻さず、現代的な経営戦略の課題を理解する。現代企業の経営戦略の事例からその手法・戦略を学ぶ。	企業戦略とは何か理解できる。 競争戦略について理解できる。 事業戦略について理解できる。 「戦略」を学ぶことによって、意志決定の重要性が理解できる。
		工業簿記	2 2	3	工業簿記(製造業における簿記)の基礎理念や内容、特徴を学習する。商業簿記は企業の外部活動に限られている一方で、工業簿記は企業の外部活動と内部活動の両方が含まれている。こうした違いなどを理解することを通じ、製造業の財務諸表の特徴を学ぶ。また、製造業における費用項目や原価計算の内容を把握することを通じて、製造業の企業経営のあり方や、製造業に対する企業診断の基礎を会得する。	工業簿記の基本理念について説明できる。 工業簿記の内容(仕組み)について理解できる。 製造業の財務諸表の特徴について説明できる。 製造業における費用項目や原価計算の特徴を理解できる。
		原価計算	2 2	4	財務諸表を作成するに当たり、原価計算は必要不可欠である。本講義では、原価計算の理論や実際の計算過程を学習する。その上で、原価計算は経営管理の有用な情報提供ツールであることの理解を深め、原価計算の分野で論じられている新たなトピックスについて紹介し、今後の原価計算の動きを説明する。	原価計算の仕組みを説明できる。 原価の内容やその意義について理解できる。 簡単な原価計算ができる。 原価計算における近年の動きを説明できる。
		データサイエンス概論	2	1	データサイエンスの基本となる考え方を学ぶ。データの入手方法やその扱い方などを習得するとともに、これを統計処理するための方法などを習得する。	データサイエンスとは何かを説明できる。 代表的なデータの種類や保存ファイルの形式を知っている。 データの収集方法や、公的データの入手方法を知っている。 データの基本統計量を計算し、データの分布をグラフや表で表すことができる。 データサイエンスの応用例を挙げられる。
		情報処理演習2	2	2	調査から得られたデータを情報でExcelで整理・分析し、その結果をWordで要約すると共に、PowerPointで分かりやすく相手に伝えるためのより高度な技術を学ぶ。また、調査の目的設定と方法についても学ぶ。	統計処理の基礎が理解できる。 Excelを用いてデータ処理ができる。 ExcelおよびWordを用いてデータ処理の結果を文章に作成できる。 データ処理の結果について、PowerPointを用いてプレゼンテーションができる。
		情報統計学2	2	3	社会で用いる応用的統計について学習する。ビジネスで使われるデータ処理の統計理論を理解し実践についてシミュレーションができる。	PPM理論を中心に商品企画で使われるデータ管理について理解できる。 売上、利益のシミュレーションが回帰分析を使い理解できる。 マーケティングに関する統計的分析技法が理解できる。 分析データを加工分析結果を分かりやすくプレゼンができる。

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
										10				10
										10				10
										20				20
										20	20	10		60
0	0	0	0	0	0	0	10	10	0	60	20	10		100
										25				25
										25				25
										25				25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0		100
										10				10
										10				10
										10	10			20
										10				10
										15	10	10		35
										15				15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	20	10		100
										25				25
										25				25
										25				25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0		100
										20				20
										20				20
										20		20		40
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20		100
										20				20
										20				20
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20		100
										10				10
										10				10
										10				10
										10	10			20
										10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0		100
										15				15
										15				15
										15				15
								20		15				35
0	0	0	0	0	0	0	20	0	60	0	20	0		100
										10	5	5	5	25
										10	5	5	5	25
										10	5	5		20
								10		10		5	5	30
0	0	0	0	0	0	0	10	0	40	10	20	20		100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標		
専門科目	基幹科目	プログラミング演習2	2	4	変数の利用、データの出力、分岐、繰り返しなどを用いたプログラムの作成と動作確認等を行うことにより、プログラミングの基礎的な技術を習得する。	プログラムの変数やデータの入出力について理解し、利用することができる。 プログラムの分岐・繰り返し構文について理解し、利用することができる。 課題として与えられたプログラムがどのような処理を行うべきかを考え、これを完成させることができる。		
		コーチング論	2	2	スポーツにおける「コーチ」「指導者」とは、アスリートを成功へ導くための重要な役割を持つものである。この授業では、組織のリーダーとしての役割、必要な素養、観察能力の必要性を学び、コーチとアスリートの関わり方、トップアスリートの発掘・成長させるための育成方法・強化方法ならびにその評価方法を学ぶ。	コーチ、指導者の役割を説明できる。 コーチとアスリートの望ましい関係を説明できる。 ミーティングの方法について説明できる。 トップアスリートの育成・強化の方法を説明できる。		
		トレーニング論	3	3	我々の身体は、それぞれの年代により成長する部位や発達速度が大きく異なっている。ヒトの身体の発育・成長には、トレーニングが大きな影響を及ぼす。そのトレーニング方法や、種類について理解し、特に成長の著しいジュニア期における発達とそのプログラム、身体的な特徴・心理的な特徴について学ぶ。	トレーニングの進め方や種類を説明できる。 発育発達期の特徴について説明できる。 発育発達期のプログラムを作成できる。 体力テストの方法について説明できる。		
		スポーツ心理学	4	4	我々は、日常生活の様々な場面で緊張や不安、喜怒哀楽などの情緒の変化を体験する。このようなヒトの心理的な変化の部分について理解することは、日常の様々な場面で対応力を育むことになる。ここではスポーツと心について学び、動機づけの重要性やコーチとしての心理を理解するとともに、メンタルマネジメントや心理的なコンディショニングについて学ぶ。	動機づけについて説明できる。 メンタルマネジメントについて説明できる。 あがりやスランプのメカニズムについて説明できる。 イメージトレーニングの方法を説明できる。		
		スポーツフットと社会	2	2	我々の生活の中にはスポーツが深く根付いている。文化としてのスポーツの歴史を理解し、地域社会におけるスポーツ振興の現状を学び、地域における子供から老人までの様々な年代の対象者のスポーツライフについて学ぶ。	スポーツの歴史と文化を説明できる。 地域におけるスポーツ振興を説明できる。 各年代の対象に合わせたスポーツライフを説明できる。 障害者スポーツについて理解し、説明できる。		
		スポーツライフと栄養	3	3	現代社会において我が国では様々なスポーツプロモーションが行われており、スポーツに触れ合う機会が増加している。また、健康な生活を送るうえで運動と食生活の関係は密接に関わりあっている。ここでは身体の仕組みと運動の関係、栄養摂取と食生活などについて学ぶ。	我が国のスポーツプロモーションについて説明できる。 身体の仕組みと働きについて説明できる。 スポーツと栄養について説明できる。 アスリートの栄養摂取と食生活について説明できる。		
		スポーツライフと健康	4	4	国民がスポーツを実践する機会は極めて多くなってきている。学校体育から生涯スポーツまで長い期間スポーツを行う人々にとって、怪我や病気のスポーツでの傷害など日常生活を行う上でも大きな問題となっている。この授業ではスポーツに関する医学的な知識の基礎を学び、障害の発生や外傷に対応できる知識を養う。	スポーツと健康について説明できる。 救急処置について説明できる。 スポーツ選手の健康管理について説明できる。 スポーツ活動中に発生するケガや病気について説明できる。		
		スポーツ情報科学概論	2	1	各分野でITが進み、情報をどのように扱うかということがより重要になってきている。スポーツ界において、情報はどのように扱われているのか、バイオメカニクス、運動生理学、統計学の視点から紐解いていく。また、各競技ごとに勝敗を左右する情報は何かということを考えていく。	スポーツ情報科学の歴史を説明できる。 バイオメカニクスのスポーツへの適応について説明できる。 生理学のスポーツへの適応について説明できる。 統計のスポーツへの適応について説明できる。 情報科学を生かし、トレーニングを組み立てることができる。		
		スポーツサイエンス	2	2	スポーツ現場だけでなく健康・体力維持増進にデータサイエンスが用いられるようになってきている。健康・体力維持増進にデータサイエンスがどのように貢献しているかを学ぶ。また、各競技ごとに重要なデータについてバイオメカニクス、生理学、統計学の視点からそれぞれ調査し発表を行うことで、データサイエンスをスポーツ現場に生かせる能力を養う。	健康・体力にデータサイエンスがどのように貢献しているか説明できる。 バイオメカニクスの視点から競技力向上につながる分析ができる。 生理学視点から競技力向上につながる分析ができる。 統計学視点から競技力向上につながる分析ができる。		
							授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
									10					10
									10					10
							20		20		20	20		80
0	0	0	0	0	0	0	20	0	40	0	20	20		100
							10							20
							10							20
							10			10				30
							10			10				30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	20	0	40		100
										10				30
										10				20
										10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	60		100
							10							30
							10							30
							10			10				30
							10							20
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	20	0	40		100
										15				25
										15				25
										15				25
										15				25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40		100
										15				25
										15				25
										15				25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40		100
										10				20
										10				20
										10	10			20
										10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	50	20	20		100
										10	10	10		30
										10	10	10		20
										10	10	10		20
										10	10	10		30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	40	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標	
専門科目群	基幹科目	スポーツ測定評価法	2	3	運動生理学を基礎とした測定実習を通じ、データを収集・分析するスキルを習得する。さらに得られた分析結果を運動・スポーツの現場における指導の質や安全性の向上に役立つ情報へ要約し、発信するスキルを身につける。	運動・スポーツがヒトの体に及ぼす生理的影響について、その測定法を学び実践することができる。 測定結果を分析し、評価することができる。 運動生理学の知識を基礎とし、科学的根拠に基づいた運動処方立案ができる。	
		スポーツヘルスケア	2	4	スポーツ栄養の知識やスキルを習得し、栄養が競技力向上にどのように関わりを持つものであるかを理解すると共に健康で有意義なスポーツライフを過ごすために必要な食事の役割と重要性を理解し、栄養学の基本とスポーツとの関係について正しい知識を学ぶ。	健康増進を目的とした食事のとり方を理解できる。 競技スポーツにおける食事や栄養補給の重要性について理解できる。 競技スポーツにおける身体づくりとコンディショニングのための食事の実践方法について理解できる。 スポーツ選手の栄養管理に関わるデータサイエンスについて理解し分析・評価することができる。	
		コンディショニング	2	3	スポーツに関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、知識や技術を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病状について理解し、アスリートの健康管理や傷害対策について考える力を身につける。	コンディショニングという言葉の意味とその内容について理解することができる。 スポーツ活動中に生じる外傷や内科的な病状およびその救急処置について理解することができる。 アスリートの健康管理について理解することができる。 スポーツ活動中における障害対策を理解することができる。	
		コンディショニング演習	2	4	スポーツ場面における傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチング等の具体的なコンディショニングの手法を覚え、知識を習得し実践できる力を身につける。	スポーツ場面における傷害予防を実践できる。 運動後の疲労回復について実践できる。 スポーツ現場で使用されるテーピングを使用することができる。 ストレッチ等のコンディショニング手法を実践できる。	
		データサイエンス演習1	2	5	問題演習を通じて、様々なデータを整理し読み解く能力を養う。また、データサイエンスの基礎となる計算力を習得する。	データサイエンスに必要とされる数学的基礎知識を理解できる。 データサイエンスに必要とされるデータ分析手法を理解できる。 基礎的なデータ分析の手順をコンピュータ上で実装できる。	
		データサイエンス演習2	2	6	データサイエンスに関連する応用的な知識を習得する。加えて、データサイエンスの活用事例などを学びながら、実践的な課題を解決する能力を身につける。	データサイエンスに必要とされる数学的基礎知識を応用できる。 データの性質や目的に応じて、データサイエンスの手法を使い分けすることができる。 現実的な問題を題材とした課題を、データサイエンスの技術を用いて解決に導くことができる。	
		キャリア開発4	1	5	キャリア開発3に続いて、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事をやっていく上で必要な基礎能力」を体験を通して学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	自分自身の将来像を描き、説明できる。 社会で活躍するために必要な力を身につけ、その必要性を理解することができる。	
		プレゼンテーションスキル	2	5	アスリートを取り巻く諸問題を考え、国際競技力向上や情報戦略、競技者を取り巻く環境について学び、これまで培ってきたスキルを活かして自らで作成したものを他人に説明できる力を身につけるプレゼンテーション・コミュニケーションスキルを培う。	アスリートを取り巻く諸問題を理解できる。 国際競技力を高めるための環境を理解できる。 相手にわかりやすく情報を説明できる。	
		経営情報論	2	5	情報あるいは情報システムをいかに組織の経営に役立てるか、また役立つような情報システムをいかに構築するかを、情報システムを活用する組織の立場に立って学ぶ。そのためにも、情報システムとは何か、何を狙いとして活用されるのかを論ずると共に、ここに至る発展の経緯を振り返る。また、組織が情報システムを作り上げる上での課題とそれに影響を与える情報産業との関係を理解する。	情報化社会について理解できる。 経営情報システムについて理解できる。 情報システムについて理解できる。 企業における情報システムについて理解できる。	
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計	
											20	10		30
									10	20	10			40
										20	10			30
0	0	0	0	0	0	0	0	10	60	30	0			100
								10		10		10		30
								10		10				20
								10		10	10			30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	40	10	10		100
								10		10		10		30
								10		20				30
								10		10				20
								10		20				30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	60	0	0		100
									20					20
									20					20
								20	20	10	10			60
0	0	0	0	0	0	0	20	0	10	0	10	10		100
									10			10		20
									15			15		30
									15		20	15		50
0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	40			100
								20	20			10		50
								20	20			10		50
0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	0	20		100
										20		10		30
										20		10		30
								10		20		10		40
0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	60	0	30		100
									10		10			20
									10		20			30
									10		10			20
									10		20			30
0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	60	0	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)必修	自由選択	開講期	学修内容	学修到達目標	
専門科目群	展開科目	管理会計論	2	経営情報コースのみ	5	企業経営者は変化に応じて会社を柔軟にマネジメントしなければならない。利益の向上、市場シェア獲得、製品(サービス)提供を通じた社会貢献など種々の目的を達成しつつ、経営資源の効率的なアウトプットが求められる目的の実現には適切な経営計画と末端までおよび統制が不可欠である。管理会計は企業の経営戦略立案や意思決定に関わる重要なツールであり、その理論、手法を理解する。	<p>管理会計と財務会計の違いや管理会計の意義が理解できる。</p> <p>管理会計の業績評価、意思決定に関する財務分析、予算統制が理解できる。</p> <p>短期利益計画、事業部の業績評価が理解できる。</p> <p>経営意思決定に関する理論と技法が理解できる。</p> <p>管理会計と経営戦略の理論的接点が理解できる。</p>	
		経営実践3	2	経営情報コースのみ	5	課題発見から解決までのプロセスにおいて、企業経営のプレイングマネージャーとして、基本かつ必要な事項(部下への適切な指示や上司への適切な報告・連絡・相談を行うなど)を実体験から学ぶ。	<p>問題発見力を身につけるために現実から問題を見出す力を身につける。</p> <p>目標を設定し、現実と主体的な関わることができる力を身につける。</p> <p>情報を見極める力を身につけ多面的に物事を見ることができるようになる。</p> <p>情報を取捨選択し、わかりやすく表現する能力を身につける。</p> <p>論理的に根拠に基づいて結論を導き出す能力を身につける。</p>	
		スポーツ情報実践3	2	スポーツ情報コースのみ	5	スポーツにおける様々なカテゴリについての課題発見や問題解決までのプロセスを、それぞれがリーダーとなりコーチングすることでグループでの目標達成を実現することを学ぶ。	<p>スポーツ現場から問題を見出すことができる。</p> <p>目標を設定し、個々が主体的に関わることができる。</p> <p>多面的に物事を見ることができるようになる。</p> <p>わかりやすく表現することができる。</p> <p>論理的に根拠に基づいて結論を導き出すことができる。</p>	
		経営分析	2		6	企業経営の健全度を分析する基礎を学習すると共に、健全な企業経営とは何かを学ぶ。企業経営を因る尺度として、これまでは財務諸表データが用いられてきたが、近年においては、キャッシュフロー分析や投資家サイドの分析などの多様な視点からの評価が求められるようになった。これを踏まえ、本講義においては、多様な視点からの経営分析ができることを大きな目標とする。	<p>経営分析する意義が理解できる。</p> <p>経営分析を行ういくつかの手法について説明できる。</p> <p>企業経営の分析を行ういくつかの基準について説明できる。</p> <p>財務諸表から企業経営の健全度を把握できる。</p> <p>キャッシュフロー分析から企業経営の健全度を把握できる。</p>	
		ベンチャービジネス論	2		5	ベンチャービジネスのビジネスモデルの理論やベンチャービジネスの特徴を学習する。その上で、具体的に起業するための方法(経理や財務、法律への対応)や、ベンチャービジネスを行うために必要な人材(リーダー像)、ベンチャービジネスに必要な経営などを学ぶ。なお、起業の方法などについては、バーチャルとして体験できるような講義を行う。	<p>ベンチャービジネスの内容や存在意義、魅力を説明できる。</p> <p>これまでのベンチャービジネスの事例をいくつか説明できる。</p> <p>具体的にベンチャービジネスを行うための方法を説明できる。</p> <p>ベンチャービジネスに必要な経営方法について説明できる。</p>	
		インターネットビジネス	2	経営情報コースのみ	6	インターネットビジネスの基礎を学習すると共に、インターネットビジネスを成功させるためのビジネスチャンス(社会や経済の変化)を踏まえながら新しいインターネットビジネスを考える。なお、講義においては、インターネットビジネスを展開している具体的な企業や業種ごと事例を用いて説明すると共に、これらの比較を通じて、インターネットビジネスの本質や可能性を考察する。	<p>インターネットビジネスの内容について説明できる。</p> <p>具体的なインターネットビジネスの事例を説明できる。</p> <p>インターネットビジネスの利点と問題点を説明できる。</p> <p>インターネットビジネスにおける決済システムについて説明できる。</p>	
		物流論	2	経営情報コースのみ	5	物流コストや物流コストと深い関係のある在庫費用に関する費用構造や費用発生メカニズムを学習する。また、事例を通じて、具体的な物流コストの削減や適切な在庫管理を学ぶと共に、今後の社会および経済の変化を踏まえ、新たな物流コストの削減や適切な在庫管理を考える。	<p>物流と流通の違いが理解できる。</p> <p>物流コストを構成する費用要素について説明できる。</p> <p>在庫の意義や問題を理解できる。</p> <p>従来行われてきた物流コストの削減について説明できる。</p> <p>適切な在庫管理の概念を理解できる。</p>	
		中小企業論	2		6	中小企業は、これまで日本の産業経済において重要な位置を占めており、近年では、ベンチャー企業による技術革新や雇用創出効果が注目されている。こうした中小企業やベンチャー企業に関する理論と事例を学ぶ。	<p>中小企業の歴史の変遷について理解できる。</p> <p>日本の下請システムが理解できる。</p> <p>産業集積と構造と役割について理解できる。</p> <p>ベンチャー企業について理解できる。</p> <p>事業創造と企業の成長プロセスが理解できる。</p>	
								授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
										15			15
										15			15
										15		10	25
										15	15		30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	25	100
								10				5	15
								10				5	15
								10	10			5	20
								10			15	10	35
0	0	0	0	0	0	0	50	10	0	0	15	25	100
								10		10			20
								10				10	20
									10	10			20
									10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	20	20	30	20	0	10	100
										10			10
										10			10
										10			10
										20		10	50
										10			30
0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	60	0	20	100
										10			10
										10			10
										20		10	50
										10			30
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	60	0	10	100
										10			10
										10			10
										10			10
										20		10	50
										10			30
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	80	0	10	100
										10			10
										10			10
										20			20
										20			20
										20		20	40
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)自由 必修選択	開講期	学修内容	学修到達目標		
専門科目群	展開科目	国際経営論	2	6	企業における業務は有機的に関係しながら、その企業のビジネス全体を支えている。財務計画や、販売計画、生産計画、調達計画などもそれぞれ限られた範囲での視点ではなく、企業が置かれている環境や、企業内それぞれの機能との連携を考慮しながら企業全体へのインパクトを考え策定することが必要である。加えて今日の企業は、経済のグローバル化に伴い、国際的な視点をも必要としている。本講義では、グローバル化した社会における企業のメカニズムを理解し、事業計画・戦略の重要性を認識するとともに、より有効な計画策定に必要な視点とグループによる意思決定プロセスについて学ぶ。	企業の業務の流れが理解できる。 グローバル化した社会における企業を取り巻く環境について説明できる。 意思決定の方法が理解できる。 業績評価の方法が理解できる。 ビジネスで成功するための計画策定からオペレーションまでが理解できる。		
		金融と財務	2	7	本講義では、金(カネ)の側面から経営に焦点を当て、企業における金の管理の基礎を学習する。その上で、貸借対照表と損益計算書の関係や、そこから見られる企業活動の見方を学ぶ。近年においては、資金調達の変化や新たな手法および基準の中で「金」を管理する基礎についても会得する。	金融および財務の内容が理解できる。 貸借対照表と損益計算書の関係が理解できる。 企業における資金調達方法と近年における資金調達の変化が理解できる。 企業のグローバル化に伴う金融や財務の内容が理解できる。		
		労働法	2	5	労働法の基本理念、基礎概念、法規制の基本的内容について学習する。その上で、具体的な事例を用いて、賃金や労働時間、福利厚生などの労働環境の実情を学ぶと共に、労働環境に関する今日の問題やその解決策を考える。	労働者に関わる法律の必要性(意義)が理解できる。 労働者保護や労働契約、労働組合に関わる法律の概要が理解できる。 労働者保護や労働契約、労働組合に関する具体的な団体交渉や判例を説明できる。 労働を取り巻く今日の問題に対して、解決に関する自身の意見を述べることができる。		
		知的財産権	2	6	人間の独創的な知的創造活動について、その創始者に一定期間の権利保護をあたえるのが知的財産権制度である。知的財産権という言葉は、文化的創造物を保護する著作権まで幅広く含む概念である。このうち産業財産権と呼ばれる特許権、実用新案権、意匠権、商標権を中心として学ぶ。産業財産権制度は、独占権の付与により、模倣防止を図り、研究開発の奨励、商取引の信用を維持して、産業の発展に寄与することを学ぶ。	知的財産権の種類が理解できる。 企業における知的財産権の重要性が理解できる。 意匠権について説明できる。 著作権について説明できる。		
		環境経営論	2	7	企業の存続・成長と地球環境保全との両立に関する先行理論を解説しながら、実際に私たちが環境経営を進める上で、どのような取り組みが必要かについて学ぶ。そこでは、環境経営の概念の捉え方をはじめ、事業レベル、製品・サービスのレベル、工場などの拠点レベルで、それぞれ資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理といった各論がどのように実施されているか、先進企業等の具体的な事例を参照する。	環境経営の概念について説明できる。 事業レベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。 製品・サービスのレベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。 工場などの拠点レベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。		
		スポーツと安全	2	5	スポーツにおいて、成果を上げるためにはPDCAは必須である。特に計画的に物事をマネジメントすることや、安全管理などは指導者にとっては必須である。またスポーツ実践中の事故や人権などの法的な知識も備えておく必要がある。ここでは指導計画や活動中の安全管理、スポーツ指導者の法的責任を理解することを学ぶ。	指導計画を立てることができる。 スポーツ活動と安全管理を説明できる。 スポーツ事故と法的責任について説明できる。 怪我とリハビリテーションについて説明できる。		
		スポーツマネジメント	2	6	日本はこれまで学校スポーツに依存してきました。企業スポーツに後押しされながら発展してきた。しかし、時代の流れとともに、少子化や景気の動向に左右されスポーツ人口の減少等の問題が出てきている。この授業では地域スポーツに目を向け、総合型地域スポーツクラブの采井や組織のマネジメント、指導者の育成などについて学ぶ。	総合型地域スポーツクラブについて説明できる。 スポーツ組織のマネジメントやマーケティングについて説明できる。 競技力向上のチームマネジメントについて説明できる。 競技力向上のための情報活用について説明できる。		
		海外事情A	2	5	本授業は、非英語圏の国での海外研修と渡航前後の5回の春期集中講義から成り立っている。海外研修先の最低限必要な言語を事前に修得し、現地の方々と直接交流を図ることで実践的な語学力の向上のみならず、より一層の異文化理解と国際感覚の体得を目的とする。渡航までに、研修先の国の基本的な知識を身につけておく。また、日本の伝統・文化を研修先の国の言語を用いて自己発信できるようにする。	非英語圏の研修先の風俗習慣、文化、歴史など基本的な事項を理解できる。 日本の伝統・文化などの基本的事項を研修先の国の言語で説明できる。		
		海外事情B	2	6	本授業は、異文化理解と国際感覚の体得を目的とする。渡航までに、アメリカの基本的な知識を身につけておく。また、日本の伝統・文化についてもしっかりと見識を深め、英語で自己発信できるようにする。	海外の風俗習慣、文化、歴史など基本的な事項を理解できる。 日本の伝統・文化などの基本的事項を英語で説明できる。 アメリカでの生活のための基本的な英会話ができる。		
							授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
										10			10
										10			10
										20			20
										20			20
										20	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	10	10	100
										15			15
										15			15
							10			10	10	15	45
							10			10		15	25
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	50	10	30	100
										10			10
										10			10
							10			10	20		40
							10			10		10	40
							20	0	0	30	40	10	100
										25			25
										25			25
										25			25
										25			25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
										25			25
										25			25
										25			25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
							10					10	20
							10					10	20
							10			10		10	30
							10			10		10	30
							10	0	0	20	0	40	100
							10					10	20
							10					10	20
							10			10		10	30
							10			10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	20	0	40	100
										30			30
										30	40		70
							60	40	0	0	0	0	100
										20			20
							20	20					40
							20	20					40
0	0	0	0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	インターンシップ (学外研修)	2		6	企業におけるインターンシップを行う。	実習先企業の業務を理解できる。 実務で発生する問題点と解決策の一例を説明できる。 机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。 将来の進路に対する自分の考え方を述べる事ができる。
						授業科目の貢献度	
	卒業研究	セミナー1	2		5	本授業は、卒業研究を行うために必要な基礎知識を修得する。授業は卒業研究の研究室単位で行われる。「セミナー1」では、卒業研究の行う基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説を理解できる。 卒業研究の研究方法を理解できる。
						授業科目の貢献度	
		セミナー2	2		6	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、「セミナー2」では、その基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説をより深く理解できる。 卒業研究の研究方法をより深く理解できる。
						授業科目の貢献度	
		セミナー3	2		7	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー3でもその基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。 卒業研究のまとめ方を理解できる。
						授業科目の貢献度	
	セミナー4	2		8	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー4では、卒業論文についての研究成果発表が中心となる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の内容について論理的に発表できる。 研究成果を根拠を基にわかりやすく表現できる。	
					授業科目の貢献度		
卒業研究	6			7・8	卒業研究は、これまでの授業を通して知り得た総合情報学科の各研究分野の中から、最も興味のある分野を選択し、教員の指導を受けながら研究論文を作成する。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。 卒業研究のまとめ方を理解できる。 卒業論文を作成し、専門的な研究成果を発表できる。	
					授業科目の貢献度		

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
							20						20
							20						20
							20						20
							20	20					40
0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	0	0	100
							20				20	10	50
							20				20	10	50
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							20				20	10	50
							20				20	10	50
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							20				20	10	50
							20				20	10	50
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							10	10			20	10	50
							10	10			20	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	40	20	100
							10				10	10	30
							10				10	10	30
							10	10			10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100

■ 総合情報学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分	授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考		
					1年次		2年次		3年次		4年次				
		必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期			
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나	1			2	[2]								
		基礎英語 세미나			1	2	[2]								
		資格英語 1	1			2	[2]								
		資格英語 2	1				2	[2]							
		英語スキル 1	1			2	[2]								
		英語スキル 2	1				2	[2]							
		英語スキル 3	1					2	[2]						
		英語スキル 4	1						2	[2]					
		実践英語 1		1							2				
		実践英語 2		1								2			
		中国語入門 1			1	2									
		中国語入門 2			1	2									
	健康科学演習 A	1			2										
	健康科学演習 B	1			2										
	Bグループ	人間・歴史文化・こころの理解	日本文学 A		2				2		2				
			日本文学 B		2					2		2			
			外国文学 A		2		2		2		2				
			外国文学 B		2			2		2		2			
			哲学 A		2		2		2		2				
			哲学 B		2			2		2		2			
			文化人類学 A		2				2		2				
			文化人類学 B		2					2		2			
			歴史学 A		2		2		2		2				
			歴史学 B		2			2		2		2			
			心理学 A		2		2		2		2				
			心理学 B		2			2		2		2			
			教育原理		2		2								
			教育心理学		2				2						
		国際情勢と社会のしくみ	政治学 A		2		2		2		2				
			政治学 B		2			2		2		2			
経済学 A				2		2		2		2					
経済学 B				2			2		2		2				
科学的なものの方と環境問題	法学 A		2				2		2						
	法学 B		2					2		2					
	社会学 A		2		2		2		2						
	社会学 B		2			2		2		2					
	社会調査の方法 A		2				2		2						
	社会調査の方法 B		2					2		2					
	現代社会論 A		2					2		2					
	現代社会論 B		2						2	2					
	教育社会学		2			2									
	健康科学 A		2		2		2		2						
健康科学 B		2			2		2		2						
認知科学 A		2				2		2							
認知科学 B		2					2		2						
環境科学 A		2					2		2						
環境科学 B		2						2	2						
自然科学概論 A		2		2		2		2							
自然科学概論 B		2			2		2		2						
生物学 A		2					2		2						
生物学 B		2						2	2						
地球科学 A		2						2	2						
地球科学 B		2							2						

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分			授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
							1年次		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
人間 科学 科目 群	B グ ル ー プ	学 問 へ の 複 眼 的 ア プ ロ ー チ	リベラルアーツ特別講義	2				◎							集中	
			リベラルアーツ実践演習A	2					2		2					
			リベラルアーツ実践演習B	2						2			2			
			教養総合講座A	2						2			2			
			教養総合講座B	2							2			2		
合計			9	90	3	32	28 [8]	44 [4]	42 [2]	42 [2]		42				

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

開講科目一覧<専門基礎科目群および専門科目群>

区分	授業科目	単位数						毎週授業時間数								備考			
		経営 情報コース			スポーツ 情報コース			1年次		2年次		3年次		4年次					
		必修	選択	自由	必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期				
専門基礎科目群	総合情報入門 세미나	1			1			2											
	コミュニケーションスキル1	2			2			2											
	コミュニケーションスキル2	2			2				2										
	情報処理演習1	2			2			2											
	データベース基礎		2			2					2								
	プログラミング演習1	2			2					2									
	情報統計学1	2			2					2									
	経営学概論	2				2		2											
	経済学入門	2				2		2											
	入門簿記	2				2		2											
	簿記原理		2							2									
	会計学		2								2								
	経営実践入門	2			2			2・◎										集中 (経営情報コースのみ)	
	経営実践1	2								◎								集中	
	スポーツ情報実践1				2					2									
	経営実践2	2									◎							集中	
	スポーツ情報実践2				2						2								
	現代物理学1			2			2				2								
	現代物理学2			2			2				2								
小計	23	6	4	17	6	4	12	8	10	4									
		29			23														
		33			27														
専門科目群	基幹科目	キャリア開発1	1			1				2									
		キャリア開発2	1			1					2								
		キャリア開発3	1			1						2							
		経営情報プロジェクト演習1	2							2									
		スポーツ情報プロジェクト演習1				2				2									
		経営情報プロジェクト演習2	2								2								
		スポーツ情報プロジェクト演習2				2					2								
		経営情報プロジェクト演習3	2									2							
		スポーツ情報プロジェクト演習3				2						2							
		情報概論				2				2									
		異文化コミュニケーション1		2			2			2									
		異文化コミュニケーション2		2						2									
		経営史		2						2									
		マーケティング概論		2							2								
		人材マネジメント		2								2							
		民法		2								2							
		会社法		2			2						2						
		交通論		2									2						
		企業経営戦略論		2			2						2						
		工業簿記		2								2							
		原価計算		2									2						
		データサイエンス概論	2			2				2									
		情報処理演習2		2			2				2								
		情報統計学2		2			2					2							
		プログラミング演習2		2			2						2						
		コーチング論					2				2								
		トレーニング論					2					2							
		スポーツ心理学					2						2						
		スポーツライフと社会					2				2								
		スポーツライフと栄養					2					2							
		スポーツライフと健康					2						2						
		スポーツ情報科学概論				2				2									
		スポーツライフのデータサイエンス					2				2								
スポーツ測定評価法					2					2									
ヘルスケアとスポーツライフ					2						2								
スポーツコンディショニング					2						2								
スポーツコンディショニング演習					2						2								

開講科目一覧<専門基礎科目群および専門科目群>

区分	授業科目	単位数						毎週授業時間数								備考				
		経営情報コース			スポーツ情報コース			1年次		2年次		3年次		4年次						
		必修	選択	自由	必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期					
専門科目群	展開科目	データサイエンス演習1	2			2								2						
		データサイエンス演習2		2			2									2				
		キャリア開発4		1			1								2					
		プレゼンテーションスキル					2								2					
		経営情報論		2			2								2					
		管理会計論		2											2					
		経営実践3		2											2					
		スポーツ情報実践3					2								2					
		経営分析		2			2									2				
		ベンチャービジネス論		2			2								2					
		インターネットビジネス		2											2					
		物流論		2											2					
		中小企業論		2			2									2				
		国際経営論		2			2									2				
		金融と財務		2													2			
		労働法		2			2								2					
		知的財産権		2			2									2				
		環境経営論		2													2			
		スポーツと安全					2								2					
		スポーツマネジメント					2									2				
海外事情A		2			2								◎					集中		
海外事情B		2			2									◎				集中		
インターンシップ(学外研修)		2			2									◎				集中		
卒業研究	セミナ1	2			2								2							
	セミナ2	2			2									2						
	セミナ3	2			2										2					
	セミナ4	2			2											2				
	卒業研究	6			6										◎	◎				
小計		27	63		35	61			10	18	22	24	24	16	6	2				
			90			96														
合計		50	69	4	52	67	4		22	26	32	28	24	16	6	2				
			123			123														

(注) 1. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。

本学を卒業するために必要な単位数は124単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

卒業研究履修・卒業基準

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
22 生	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	総合情報入門セミナー	基礎英語セミナー

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。

注2) 基礎英語セミナーの科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数(100単位)には含まませんが、合格していることが必要です。**

<不合格者>4年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻又はコース	科目群	必要単位数	
22 生	総合情報学科 各コース	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目9単位を含め27単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から2単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから2単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から2単位以上	
			専門基礎科目群	必修科目23単位
	総合情報学科 経営情報コース	専門科目群	必修科目27単位	
	総合情報学科 スポーツ情報コース	専門基礎科目群	必修科目17単位	左記条件を満たし 97単位以上
	専門科目群	必修科目35単位		

<不合格者>次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

他学部・他学科および学科内他専攻履修

【他学部・他学科履修】

工学部の各学科、情報システム学科及び情報デザイン学科の専門基礎科目群および専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

【学科内他コース履修】

開講科目一覧表における、自コースに開講していない他コース科目の単位を修得した場合、6単位を上限とし、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。